



第 10 回 文化的景観研究集会

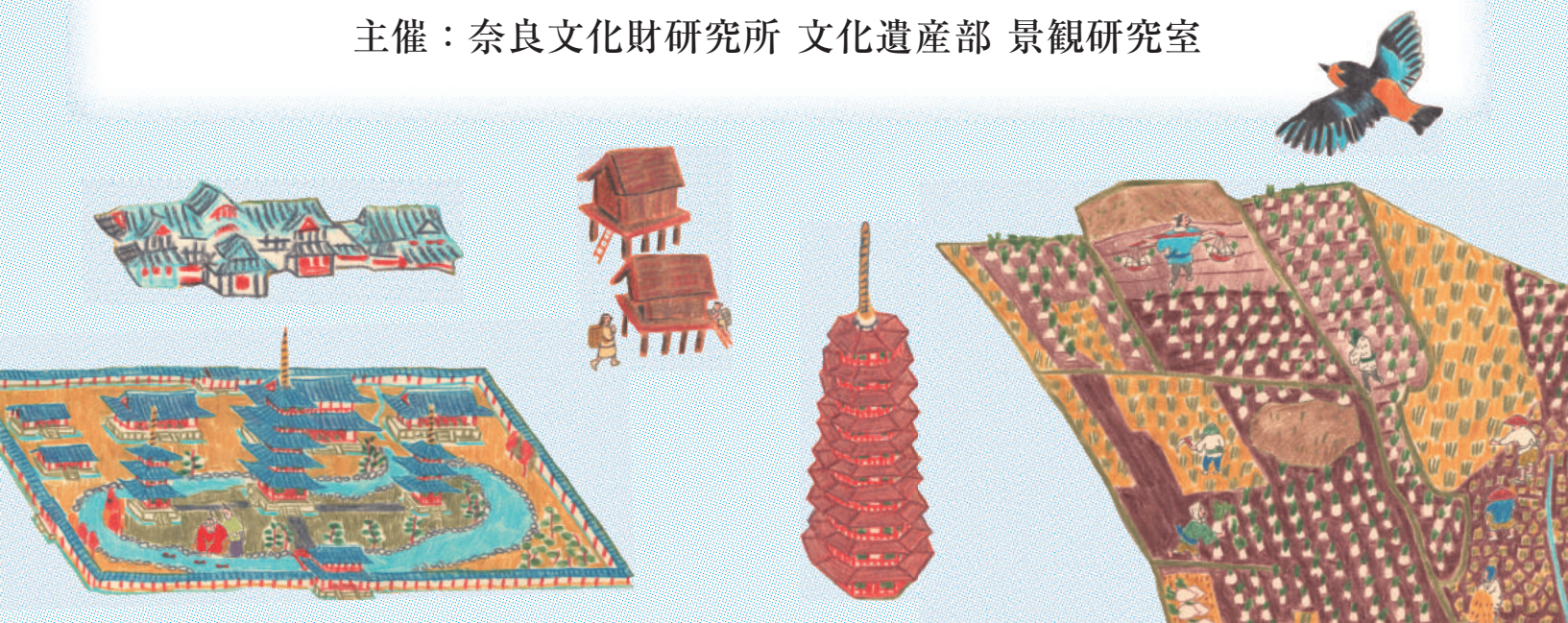
風景の足跡

— 考古学からの文化的景観再考 —

2018 年 11 月 18 日 (日)

会場：平城宮跡資料館講堂

主催：奈良文化財研究所 文化遺産部 景観研究室



景観研究室では 2009 年から文化的景観研究集会を開催し、価値や整備・活用など様々な観点から議論を重ねてきました。今年は第 10 回となることから、この研究集会の最初の議論に立ち戻りたいと思います。

第 1 回の文化的景観研究集会では、「文化的景観とは何か？—その輪郭と多様性をめぐって—」というテーマのもと、考古学の専門家で占められる自治体の担当職員の方々がいかに文化的景観というものを理解し、地域においてその価値を活かしていくことができるのか、ということを趣旨としました。それから 10 年が経ち、文化的景観の取組が進められるなかで、もういちど、考古学を専門とする方々と文化的景観やこれからの地域づくりについて考えたいと思います。

研究集会をスタートさせて 10 年、それぞれの地域で直面する出来事や課題と相互往復しながら、わたしたちが最も多くの時間を費やしてきた議論の核心は、文化的景観として守るものは何で、許容されうる変化とは何なのか、ということでした。変化を受け入れながらも未来に向けて受け継ぐ価値、それは地域が歩んできた歴史にヒントがあると考えています。

いま改めて、現在から過去、そして未来へ、時代の層を貫く文脈の存在を、地域に寄り添いつづける考古学のアプローチから考えたいと思います。

プログラム

- 12:30 受付開始
- 13:00～13:05 開会挨拶 中島 義晴（奈良文化財研究所景観研究室・室長）
- 13:05～13:15 趣旨説明 恵谷 浩子（奈良文化財研究所景観研究室・研究員）
- 13:15～14:00 【研究報告1】 木立 雅朗氏（立命館大学）
「モノを通じて見た地域の歴史ー伝統工芸から見た京都の現在・過去・未来ー」
- 14:00～14:30 【研究報告2】 谷口 榮 氏（葛飾区産業観光部）
「都市域の文化的景観における考古学の意味ー葛飾柴又の調査より」
- 14:30～15:00 【研究報告3】 松崎 義治 氏（五島市総務企画部）
「農山漁村の文化的景観における考古学の意味ー五島の調査より」
- 15:00～15:30 【研究報告4】 杉本 宏 氏（京都造形芸術大学）
「遺跡と現在との豊かな関係性」
- 15:30～16:15 ポスターセッション
1) 学術研究部門
2) 地域計画部門
3) 地域活動部門
- 16:15～17:45 パネルディスカッション
パネリスト : 木立雅朗氏、谷口榮氏、松崎義治氏、杉本宏氏
コメンテーター: 菱田 哲郎 氏（京都府立大学）、小浦 久子 氏（神戸芸術工科大学）
モデレーター: 恵谷 浩子
- 17:45～18:00 ベストポスター賞授与式&閉会挨拶
- 18:30～20:30 情報交換会（会費：一般3,000円／学生2,000円）

アクセス

